

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101652		
法人名	社会福祉法人 すだち会		
事業所名	すだち会グループホーム		
所在地	徳島市大原町余慶71番地の2		
自己評価作成日	令和4年1月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和4年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、山や田畑に囲まれ、四季を肌で感じられる静かな環境の下にあり、その人らしさを大切に笑顔を安心に満ちた生活を、毎日送ることができるよう心掛けています。畑の草抜きや洗濯畳み・干しなど、一人一人に合った取り組みを行い、健康と体力の維持に努めるとともに、生き生きとした毎日を送ることができるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田畑に囲まれた、自然を身近に感じることができる環境に位置している。敷地内には、四季折々の花を植え、利用者の散歩の際や園芸活動を通じて、季節を感じることができるようにしている。“地域の中で、笑顔と安心に満ちた毎日”を理念として掲げ、利用者の思いや意向等を尊重した支援に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、感染症対策を徹底したうえで面会を実施したり、写真入りのたよりを送付したりして、家族等との関係継続を支援することで、利用者・家族等の安心につなげている。利用者の日ごろの支援のなかでも、少人数でドライブに出かけるなど、可能な範囲で外出支援も行っている。また、利用者の希望に応じて、事業所内の階段やエレベーターも自由に使用できるなど、自由な暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、毎日の朝礼で理念の実現に向けての基本方針と職員の心得を唱和し、再確認・共有することによって、支援の原点として全職員が日々の実践に繋がるよう心掛けている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。理念にもとづく“職員こころえ”を作成し、毎朝の朝礼で唱和することで、職員間での共有化を図っている。職員は、理念に掲げる“安心”に満ちたケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為、交流を図る機会が少なくなったが、感染対策を行いながら、地域の美容院を利用したり、地域の小学生の作品を受け取り、飾って何度も見返すなど、利用者様が地域と繋がりながら暮らし続けられるよう支援している。	事業所では、近隣住民や小学校等と地域交流を図っている。感染症(コロナ等)の流行下においても、小学校と手紙や作品等をやり取りするなど、交流を継続している。また、感染症対策を講じつつ、地域の美容室を活用するなど、可能な限り地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、外部に向けて開催していた催し物などは行えていないが、近所に散歩に出掛けた際には、積極的に挨拶をするなど、利用者様が地域の方々と直接触れ合うことで、認知症の人の理解や支援の方法を広く伝える事ができるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回の書面会議を行い、利用者様の状況や行事について報告するとともに、職員の研修発表を行い、出された意見等は職員間で共有し、サービスの質の向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行に伴い、書面による会議を実施している。郵送の際に意見書を同封し、取り組みに対する意見を得ることができるよう工夫している。管理者は、書面の報告においても、より内容の充実を図ることを検討している。	今後は、日ごろの事業所での取り組みや行事等に関する写真を載せるなどして、よりわかりやすく内容を伝える工夫が望まれる。多くの意見を得ることで、更なるサービスの質の向上に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録や事業所の報告、更新の手続きなどを郵送したり、電話にて事業所の運営や制度改正、サービスについての助言・協力を得ることができるよう取り組んでいる。	事業所では、定期的に、市の担当窓口へ活動報告を行っている。感染症の流行下においても、できる限り訪問するよう努めている。制度の改正時等の際にも相談し、助言を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束の弊害や内容を理解し、利用者様が安全安楽な生活が送れるように、日々見守りや声掛けに工夫をし注意を払っている。安全に十分配慮したうえで、階段やエレベーターを自由に利用することも含め、身体拘束をしないケアに取り組んで利用者様の暮らしを支援している。	事業所では、利用者の心身状況を踏まえたうえで、安全面に配慮しつつ、階段やエレベーターを自由に使えるようにしている。日中は、玄関を開放し、利用者の自由な暮らしを支援している。利用者の安心・安全が施設防止につながると捉え、日ごろの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての資料を基に、内部での勉強会を行い、虐待に対する認識を深めるとともに、職員間で介護の方法を考え、話し合うことにより虐待防止の徹底を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、内部で勉強会を行い学ぶ機会を設けている。全職員が利用者様一人一人の必要性を考え、話し合い、情報を共有できるようにし、必要時には、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学をして頂き、入居契約締結時には管理者がご本人様やご家族様に、解約・改定についての理解が得られるよう説明する時間を十分に設け、不安や疑問、不明な点にも答え理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様一人一人に担当職員を定め、日頃の関わりのなかでご本人様の思いを感じ取り、寄り添うことにより利用者様一人一人の気持ちを大切にケアに取り組んでいる。行事の際には、ご家族様の思いや意見を表せる機会を設け、運営に反映できるよう取り組んでいる。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望等を聞き取っている。家族等からは、来訪時や電話連絡などの機会に意向を確認している。聞き取った意見について、職員間で協議し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が利用者様との関わりのなかで気付いたことや思い、意見を伝えられるよう毎日の朝礼や個別に話を聞く機会を設けている。また、出された意見や提案は、月1回の全体ミーティングで話し合うことにより運営面に活かせるよう取り組んでいる。	管理者は、日ごろの支援や朝礼、毎月のミーティングなどの機会に、職員からの意見・提案等を聞き取っている。出された意見等について協議・検討し、代表者に伝えるとともに、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が、やりがいや向上心を持って働くことができるよう、各自の意見が発しやすい環境作りをし、個別に話を聞く機会を設けている。また、資格取得に向けた支援や職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、法人内外の研修を受講できる機会を作ったり、経験の長い職員からの助言を受け、話し合うなど個人のスキルアップを図っている。全職員で、研修や勉強会の報告書を回覧し日々のケアのなかでの実践につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話での情報交換や書面会議でのやりとりを全職員が回覧できるようにし、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の表情や態度などを良く観察し、時間をかけ傾聴するよう努め、安心できる言葉遣いなどを心掛け、どのように生活を送っていきたいかや不安なことが、伝えやすい環境を作ることによって、安心感のある信頼関係が築いていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の立場になり、不安な事・要望などにゆっくりと耳を傾け受け止めることにより、安心感が得られるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日頃から、ご本人様やご家族様と話し合いをし、どのような時にどのような支援を必要としているかを見極め、必要なサービス利用を紹介するなどし、事業所として柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様に対して介護される一方の立場におかず、生活のパートナーとしての意識を持ち、共に喜び、寄り添い、支え合う、家族のような関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限を設けているため、ご家族様には、電話や写真入りの便りなどで近況の報告をしている。会う機会が少なくなっているため、ご本人様と共に支え合っていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みのある方やご家族様との絆を大切に捉え、開放的なスペースで短時間であっても、穏やかに面会できるような環境作りをしている。電話の取り次ぎもを行い、関係継続に努めている。	事業所では、利用者の馴染みの美容室に同行するなど、一人ひとりの馴染みの関係を継続するよう支援している。感染症の流行下においては、安全面に配慮しつつ、面会場所を工夫するなど、関係性が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活の中で、利用者様一人一人の個性を重視し、利用者様同士が関わり合えるよう座席の配置や声掛けに配慮し、職員が一緒になることによって利用者様が孤立せず支え合えるような支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居などで、サービス利用が終了しても、面会や電話を行い経過を見守り、これからの生活についての相談にのるなどし、ご本人様やご家族様との関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から、何気ない会話や仕草・視線や表情の変化を見落とさず、細やかな情報収集を行い職員間で共有することによって、その人らしい生活への思いや意向を汲み取り把握するよう努めている。	職員は、日ごろの利用者との会話などから、思いや意向等の把握に努めている。意思の表出が困難な方については、表情や仕草等を確認し、職員間で共有化を図りつつ、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中で、ご本人様との会話や利用者様同士の会話から、その人らしい暮らし方の情報を得るとともにアセスメント表を活用し、ご本人様の生活歴や環境などを把握し、安心して自分らしく、今までの暮らしが続けられるよう一人一人に合った支援を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックを行うとともに、表情や行動を注視し、それぞれの個性に合わせたケアを提供することによって、それぞれのペースで充実した一日を過ごすことができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様の思いや要望を尊重し、現状に即した介護計画を作成している。また、日々の介護の状態を見ながら、職員が気付いた事やアイデアをその都度出し合い反映し、利用者様の細かな変化に応じて計画の見直しを行うよう努めている。	事業所では、利用者や家族等の意向を踏まえた介護計画を作成している。定期的なモニタリングや見直しの際には、日ごろの支援で気づいたことを計画に反映するよう努めている。管理者は、随時、利用者の心身状況に変化が生じた際、速やかに計画を見直すことを検討している。	今後は、利用者の心身状況の変化に応じた計画の見直しを行うことで、現状に即した計画を作成することに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の健康状態や発言・行動などの小さな変化も見落とさないよう、個人記録を作成し、何気ない会話の中から思いをくみ取り、職員間で情報を共有しながら、日々の支援の方法やサービス計画の見直しに活かすことができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況や要望などを踏まえ、その都度、生まれるニーズに対して柔軟な支援やサービスの提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のさまざまな資源を把握し、地域の方との交流を図り、理解や協力を得て、利用者様一人一人が、安心安全な生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望するかかりつけ医を確認し、ご家族様と連絡を取り合い受診を支援している。また、身体機能や病状に応じて専門科の受診をしたり、緊急時には、協力医療機関との連携により、利用者様が適切な医療を継続して受けられるよう支援している。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医等を受診する際は、家族等の協力を得ている。協力医療機関や訪問看護と連携を図り、夜間や緊急時等の医療体制を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で、一人一人の体調やささいな表情の変化も見逃すことのないよう観察している。病院看護師や訪問看護師などと情報を共有することで、必要とする医療の把握を行うことにより、異常の早期発見ができ、個別に適切な受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人様の不安が軽減できるようお見舞いに行くなどし、安心して治療が行え、早く回復できるよう支援している。また、病院関係者との情報交換に努めるとともに、ご家族様への情報提供を行っている。退院前には、病院でのカンファレンスに参加することもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、ご本人様やご家族様の思いをお聞きし尊重しながら、重度化した場合や終末期に向けての事業所としてのあり方を十分に説明している。入居後はご本人様の心身状況の変化に合わせて、意向の再確認を行い支援に取り組んでいる。	事業所では、契約時の段階で、重度化や終末期の方針について、利用者や家族等に説明している。利用者の心身状況の変化に応じて、家族等の意向を確認しつつ、協力医療機関とともにチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に、全ての職員が適切な処置が確実にいえるよう応急手当等のマニュアルを作成し、内部での研修を行い実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には、昼夜問わずどのような状況でも確実に避難できる方法を職員が身につけるとともに、利用者様一人一人の状態を把握し、個々に合った具体的な救助方法を検討し自主防災訓練に取り組んでいる。	毎月、事業所では、火災等を想定した避難訓練を実施している。年1回、消防署や地域住民等の参加・協力を得た防災訓練も行っている。感染症の流行下においては、自主防災訓練の状況を消防署に報告するなど、地域との協力体制の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人に寄り添いながら、思いやその人らしさを尊重し、尊厳やプライバシーを損ねることのないよう職員間で確認し合うことによって、個々に合った支援が実践できるよう支援している。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりを尊重した支援に努めている。理念である“笑顔”と“安心”を心掛けつつ、声の大きさや言葉のかけ方などを工夫し、尊厳やプライバシーを損ねることのないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、利用者様との関わりを大切に、希望を伝えやすい環境作りをしている。また、声掛けにも工夫をし、いろいろな選択肢の中から自己決定ができ、ご本人様の思いが表現できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の一日を大切に捉え、ご本人様のペースで達成感が得られるような生活を送ることができるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の一日が、楽しくその人らしく過ごすことができるように、普段から清潔でその人らしいお洒落ができるよう、好みに合った衣類を購入したり、パーマ屋さんへ出掛けたりと自己選択ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の畑で採れた季節の食材を使い、リビング内の炊事場で調理をしている。調理の方法や盛り付けの風景を見たり、香りを感じられることによって、食事への楽しみが高められるよう努めている。コロナ禍で間隔をとりながらではあるが、利用者様と職員が一緒に食卓を囲み、家庭的な雰囲気の中で食事の時間を楽しんでいる。	食事は、手作りのものを提供している。日ごろの会話のなかで、利用者の好み等を把握し、メニューに取り入れている。畑で採れた野菜を活用したり、利用者と一緒におやつを作ったりして、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人内の管理栄養士が、作成した献立を参考にし職員間の情報共有を行いながら、一人一人に応じた食事形態や調理方法を工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が、口腔内の清潔保持の重要性を十分に理解するとともに、一人一人の能力に合わせ支援している。定期的に、歯科衛生士の指導と歯科医師の診察や助言を受け、口腔ケアの大切さを学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で情報を共有し、ご本人様のサインを見落とすことなく、個々の排泄パターンを把握するよう努めている。ご本人様の能力が生かせるよう、パットや下着を使い分け、トイレでの自立した排泄に向けた支援を行っている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄状況を把握している。個別の状況にあわせて、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。言葉かけを工夫し、気持ちよく排泄することができるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のテレビ体操や個々に合わせた運動などを行っている。また、こまめな水分補給や食事内容の工夫をし、個々に応じた便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員は、利用者様の思いを把握することができ大切な時間として入浴時間を捉え、一人一人の心身状況や意志を重視した入浴方法を行うことによって、自宅で入浴している時と同じようにゆったりとくつろぐことができる時間になるよう努めている。	事業所では、週2回は入浴できるよう支援している。入浴拒否がある場合は、時間をずらしたり、対応する職員を代えたりして、気持ちよく入浴できるよう工夫している。一人ひとりの心身状況に応じて足湯を行うなど、状態にあわせた支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体操や運動、手先を使うことなどの活動量を増やし、また、穏やかに過ごせるような関わりを大切にしている。夜間は、馴染みの寝具を使用したり室温に気を付けるなどし、ご本人様が落ち着ける環境を整え、安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の大切さや内容を理解・把握し、飲み忘れや間違いがないよう重ねて確認をしている。服用後の表情の変化を見逃さず、普段と違う様子があれば、速やかに医師等に指示を仰げるよう職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の生活の中で、ご本人様の希望に沿ったできることを見付け、役割として担って頂き、楽しみや張り合いのある充実した一日になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、誕生日外出やイベントへの参加、買い物・外食など、毎年・毎月行っていないことを自粛しつつ、近所への散歩や園芸活動で気分転換できるよう努めている。	事業所では、感染症の流行にともない、可能な範囲で外出支援に取り組んでいる。敷地内で園芸活動したり、少人数でドライブに出かけたりするなど、安全面に配慮しつつ、気分転換を図ることができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、ご本人様が金銭を管理することの大切さを理解し、一人一人の能力に合ったお金の所持ができるよう努めている。必要時には、個々の能力に合わせ使用ができるようにし、社会との繋がりが維持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて電話を掛けたり、ご家族様からの電話の取り次ぎなどを行い、ご家族様との関係を大切にできるよう努めている。コロナ禍で、ご家族様に面会や行事参加をしていただけないため、季節の便りを出したり、敬老祝のメッセージを送ってもらったりし、繋がりが継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節の移り変わりが感じられる花や地域との関わりが感じられる小学生の作品などを飾り、居心地が良くなるよう室温や照明に配慮し、ゆっくりと安心できる空間作りに努めている。また、テーブルにパーテーションを設置したり、広く間隔をとるなど感染対策も行っている。	共用空間は、日光が差し込み、明るい。季節の花を生けたり、行事にあわせた飾りつけを行ったりして、季節を感じることができるようにしている。また、パーテーションの設置や間隔の工夫等により、安全面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、大きな窓の近くにソファや畳を設置し、利用者様同士で会話を楽しんだり、一人でゆったりと過ごすなど思い思いに、自由にくつろぐことができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が、安心して過ごすことができるよう、使い慣れた家具や馴染みの調度品を持ち込んで頂き、ご家族様の写真や手紙、好みのポスターを飾るなど、一人一人が居心地よく過ごすことができるよう支援している。また、転倒防止に考慮した安全な家具の配置も行っている。	居室には、利用者が使い慣れた家具や馴染みのあるものを持ち込んでもらっている。家具の配置等を工夫し、落ち着いて過ごすことができる空間づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は、日々の生活の中で一人一人の「できること・わかること」を把握し、一人一人に合った支援の工夫や安全な環境の整備を行うことにより、できる限り自立した生活を送っていただけるよう心掛けている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、毎日の朝礼で理念の実現に向けての基本方針と職員の心得を唱和し、再確認・共有することによって、支援の原点として全職員が日々の実践に繋がるよう心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為、交流を図る機会が少なくなったが、感染対策を行いながら、地域の美容院を利用したり、地域の小学生の作品を受け取り、飾って何度も見返すなど、利用者様が地域と繋がりながら暮らし続けられるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、外部に向けて開催していた催し物などは行えていないが、近所に散歩に出掛けた際には、積極的に挨拶をするなど、利用者様が地域の方々と直接触れ合うことで、認知症の人の理解や支援の方法を広く伝える事ができるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回の書面会議を行い、利用者様の状況や行事について報告するとともに、職員の研修発表を行い、出された意見等は職員間で共有し、サービスの質の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録や事業所の報告、更新の手続きなどを郵送したり、電話にて事業所の運営や制度改正、サービスについての助言・協力を得ることができるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束の弊害や内容を理解し、利用者様が安全安楽な生活が送れるように、日々見守りや声掛けに工夫をし注意を払っている。安全に十分配慮したうえで、階段やエレベーターを自由に利用することも含め、身体拘束をしないケアに取り組んで利用者様の暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての資料を基に、内部での勉強会を行い、虐待に対する認識を深めるとともに、職員間で介護の方法を考え、話し合うことによって虐待防止の徹底を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、内部で勉強会を行い学ぶ機会を設けている。全職員が利用者様一人一人の必要性を考え、話し合い、情報を共有できるようにし、必要時には、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学をして頂き、入居契約締結時には管理者がご本人様やご家族様に、解約・改定についての理解が得られるよう説明する時間を十分に設け、不安や疑問、不明な点にも答え理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様一人一人に担当職員を定め、日頃の関わりのなかでご本人様の思いを感じ取り、寄り添うことによって利用者様一人一人の気持ちを大切にケアに取り組んでいる。行事の際には、ご家族様の思いや意見を表せる機会を設け、運営に反映できるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が利用者様との関わりのなかで気付いたことや思い、意見を伝えられるよう毎日の朝礼や個別に話を聞く機会を設けている。また、出された意見や提案は、月1回の全体ミーティングで話し合うことによって運営面に活かせるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が、やりがいや向上心を持って働くことができるよう、各自の意見が発しやすい環境作りをし、個別に話を聞く機会を設けている。また、資格取得に向けた支援や職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、法人内外の研修を受講できる機会を作ったり、経験の長い職員からの助言を受け、話し合うなど個人のスキルアップを図っている。全職員で、研修や勉強会の報告書を回覧し日々のケアのなかでの実践につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話での情報交換や書面会議でのやりとりを全職員が回覧できるようにし、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の表情や態度などを良く観察し、時間をかけ傾聴するよう努め、安心できる言葉遣いなどを心掛け、どのように生活を送っていきたいかや不安なことが、伝えやすい環境を作ることによって、安心感のある信頼関係が築いていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の立場になり、不安な事・要望などにゆっくりと耳を傾け受け止めることにより、安心感が得られるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日頃から、ご本人様やご家族様と話し合いをし、どのような時にどのような支援を必要としているかを見極め、必要なサービス利用を紹介するなどし、事業所として柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様に対して介護される一方の立場におかず、生活のパートナーとしての意識を持ち、共に喜び、寄り添い、支え合う、家族のような関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限を設けているため、ご家族様には、電話や写真入りの便りなどで近況の報告をしている。会う機会が少なくなっても、ご本人様を共に支え合っていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みのある方やご家族様との絆を大切に捉え、開放的なスペースで短時間であっても、穏やかに面会できるような環境作りをしている。電話の取り次ぎも行き、関係継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活の中で、利用者様一人一人の個性を重視し、利用者様同士が関わり合えるよう座席の配置や声掛けに配慮し、職員が一緒になることによって利用者様が孤立せず支え合えるような支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居などで、サービス利用が終了しても、面会や電話を行い経過を見守り、これからの生活についての相談にのるなどし、ご本人様やご家族様との関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から、何気ない会話や仕草・視線や表情の変化を見落とさず、細やかな情報収集を行い職員間で共有することによって、その人らしい生活への思いや意向を汲み取り把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中で、ご本人様との会話や利用者様同士の会話から、その人らしい暮らし方の情報を得るとともにアセスメント表を活用し、ご本人様の生活歴や環境などを把握し、安心して自分らしく、今までの暮らしが続けられるよう一人一人に合った支援を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックを行うとともに、表情や行動を注視し、それぞれの個性に合わせたケアを提供することによって、それぞれのペースで充実した一日を過ごすことができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様の思いや要望を尊重し、現状に即した介護計画を作成している。また、日々の介護の状態を見ながら、職員が気付いた事やアイデアをその都度出し合い反映し、利用者様の細かな変化に応じて計画の見直しを行うよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の健康状態や発言・行動などの小さな変化も見落とさないよう、個人記録を作成し、何気ない会話の中から思いをくみ取り、職員間で情報を共有しながら、日々の支援の方法やサービス計画の見直しに活かすことができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況や要望などを踏まえ、その都度、生まれるニーズに対して柔軟な支援やサービスの提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のさまざまな資源を把握し、地域の方との交流を図り、理解や協力を得て、利用者様一人一人が、安心安全な生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望するかかりつけ医を確認し、ご家族様と連絡を取り合い受診を支援している。また、身体機能や病状に応じて専門科の受診をしたり、緊急時には、協力医療機関との連携により、利用者様が適切な医療を継続して受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で、一人一人の体調やさいいな表情の変化も見逃すことのないよう観察している。病院看護師や訪問看護師などと情報を共有することで、必要とする医療の把握を行うことにより、異常の早期発見ができ、個別に適切な受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人様の不安が軽減できるようお見舞いに行くなどし、安心して治療が行え、早く回復できるよう支援している。また、病院関係者との情報交換に努めるとともに、ご家族様への情報提供を行っている。退院前には、病院でのカンファレンスに参加することもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、ご本人様やご家族様の思いをお聞きし尊重しながら、重度化した場合や終末期に向けての事業所としてのあり方を十分に説明している。入居後はご本人様の心身状況の変化に合わせ、意向の再確認を行い支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に、全ての職員が適切な処置が確実にいえるよう応急手当等のマニュアルを作成し、内部での研修を行い実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には、昼夜問わずどのような状況でも確実に避難できる方法を職員が身につけるとともに、利用者様一人一人の状態を把握し、個々に合った具体的な救助方法を検討し自主防災訓練に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人に寄り添いながら、思いやその人らしさを尊重し、尊厳やプライバシーを損ねることのないよう職員間で確認し合うことによって、個々に合った支援が実践できるよう支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、利用者様との関わりを大切にし、希望を伝えやすい環境作りをしている。また、声掛けにも工夫をし、いろいろな選択肢の中から自己決定ができ、ご本人様の思いが表現できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の一日を大切に捉え、ご本人様のペースで達成感が得られるような生活を送ることができるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の一日が、楽しくその人らしく過ごすことができるように、普段から清潔でその人らしいお洒落ができるよう、好みに合った衣類を購入したり、パーマ屋さんへ出掛けたりと自己選択ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の畑で採れた季節の食材を使い、リビング内の炊事場で調理をしている。調理の方法や盛り付けの風景を見たり、香りを感じられることによって、食事への楽しみが高められるよう努めている。コロナ禍で間隔をとりながらではあるが、利用者様と職員が一緒に食卓を囲み、家庭的な雰囲気の中で食事の時間を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人内の管理栄養士が、作成した献立を参考にし職員間の情報共有を行いながら、一人一人に応じた食事形態や調理方法を工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が、口腔内の清潔保持の重要性を十分に理解するとともに、一人一人の能力に合わせ支援している。定期的に、歯科衛生士の指導と歯科医師の診察や助言を受け、口腔ケアの大切さを学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で情報を共有し、ご本人様のサインを見落とすことなく、個々の排泄パターンを把握するよう努めている。ご本人様の能力が生かせるよう、パットや下着を使い分け、トイレでの自立した排泄に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のテレビ体操や個々に合わせた運動などを行っている。また、こまめな水分補給や食事内容の工夫をし、個々に応じた便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員は、利用者様の思いを把握することができる大切な時間として入浴時間を捉え、一人一人の心身状況や意志を重視した入浴方法を行うことにより、自宅で入浴している時と同じようにゆったりとくつろぐことができる時間になるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体操や運動、手先を使うことなどの活動量を増やし、また、穏やかに過ごせるような関わりを大切にしている。夜間は、馴染みの寝具を使用したり室温に気を付けるなどし、ご本人様が落ち着ける環境を整え、安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の大切さや内容を理解・把握し、飲み忘れや間違いがないよう重ねて確認をしている。服用後の表情の変化を見逃さず、普段と違う様子があれば、速やかに医師等に指示を仰げるよう職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の生活の中で、ご本人様の希望に沿ったできることを見付け、役割として担って頂き、楽しみや張り合いのある充実した一日になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、誕生日外出やイベントへの参加、買い物・外食など、毎年・毎月行きたいことを自粛しつつ、近所への散歩や園芸活動で気分転換できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、ご本人様が金銭を管理することの大切さを理解し、一人一人の能力に合ったお金の所持ができるよう努めている。必要時には、個々の能力に合わせ使用ができるようにし、社会との繋がりが維持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて電話を掛けたり、ご家族様からの電話の取り次ぎなどを行い、ご家族様との関係を大切にできるよう努めている。コロナ禍で、ご家族様に面会や行事参加をしていただけないため、季節の便りを出したり、敬老祝のメッセージを送ってもらったりし、繋がりが継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節の移り変わりが感じられる花や地域との関わりが感じられる小学生の作品などを飾り、居心地が良くなるよう室温や照明に配慮し、ゆっくりと安心できる空間作りに努めている。また、テーブルにパーテーションを設置したり、広く間隔をとるなど感染対策も行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、大きな窓の近くにソファや畳を設置し、利用者様同士で会話を楽しんだり、一人でゆったりと過ごすなど思い思いに、自由にくつろぐことができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が、安心して過ごすことができるよう、使い慣れた家具や馴染みの調度品を持ち込んで頂き、ご家族様の写真や手紙、好みのポスターを飾るなど、一人一人が居心地よく過ごすことができるよう支援している。また、転倒防止に考慮した安全な家具の配置も行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は、日々の生活の中で一人一人の「できること・わかること」を把握し、一人一人に合った支援の工夫や安全な環境の整備を行うことにより、できる限り自立した生活を送っていただけるよう心掛けている。		